

# シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校  
2025. 12. 26



## わくわく感を支える豊かな発想力、創造力

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

2025 年度第1号(4月発行)の学校だよりの冒頭<sup>ぼうとう</sup>で、今年度のシラチャ校が目指す姿を、「わくわく感と、確かな進歩が実感できる学校」という言葉で表した。4月から12月までの10か月にわたる各学年の取組を見ていると、それぞれの学年の先生と児童生徒が一体感をもって目標に向かって進んできたように感じられる。

わくわく感というものは、自分が直面するものに対するポジティブな期待感や楽しみの集まりである。特に、成長のエネルギーにあふれている子供たちにとって、修学旅行をはじめとする校外学習などの機会は、わくわく感いっぱいのある場であるだろう。

子供たちは、上級学年に進級するにつれて、未知の世界に足を踏み入れるわけで、習うことも経験することもすべてにおいて新鮮であるし、それが、年代的にも最も楽しいと感じられる友達との集団活動で達成されるのだから、この時代のわくわく感は、子供たちの特権というべきものであろう。

ところで、シラチャ校のよいところは、上記の子供たちの特権のようなポジティブな期待感を、学年や学級を担当する先生も、また、校長をはじめとするわれわれ管理職<sup>いだ</sup>も抱くことができるという点である。

その原動力の一つは、シラチャ校の児童生徒や教員間に<sup>みなぎ</sup>漲っている発想力や創造力の豊かさである。その原動力の源泉<sup>げんせん</sup>は、日々それらを育てている教育活動自体にある。

日本各地から集まった児童生徒や先生が、一つのゴールに向かって、様々な発想をめぐらし、創造力を豊かに働かせて完成形を目指していく姿はとても頼もしい。その過程において、学年や学級の先生は、子供たちの意欲や発想に感心し、管理職は、子供たちの力を引き出すための先生の意欲や発想に感心するのである。このプラスの循環<sup>じゅんかん</sup>が、ポジティブな期待感としてのわくわく感を、学校教育全体を通じて保持す

ることができる<sup>ひけつ</sup>秘訣なのである。

一例を挙げると、12月には、小学部1年生が「自然の材料を使ったおもちゃを作って遊ぶ」という生活科の学習を行った。20ライ(1ライは1,600平方メートル)の広さのあるシラチャ校の敷地内には、木の実や小枝、葉っぱなどの「自然」がいっぱいである。その自然の材料を集めてきた子供たちは、グループでできる楽しい遊び ― たとえば、福笑い、魚釣り、ボーリング、木の実のスライダートイなどを考え作り出した。



小学部1年生が、工夫を凝らして自然の材料から創作した遊び。写真は「福笑い」(2025年12月)

1学年を担当する先生は、出来上がったおもちゃを前にした子供たちに、「2年生のお兄さんやお姉さんを招待して自分たちのおもちゃで遊んでももらったらどうかな?」、「どうしたら喜んでもらえるかな?」、「どうしたら自分たちの遊び道具がもっと良くなるのかな?」などという問いかけを行う。そして、その問いかけは、「2年生を招待したい」、「遊び方の説明を作ればよい」、「意見や感想をもらおう」などという、子供たちの新たな意見や発案につながっていく。

そうした創意工夫を凝らした授業がある時には、学年の先生が校長室に連絡してくれるので、わくわくしながら我々も見に行くことができるという仕組みになっている。

11月から12月にかけては、小学部6年生の修学旅行や5年生の臨海学校、小・中学部の現地校交流学习会などのイベントが続いた。こういう自由度の高い学習には、ユニークな発想や創意工夫が大いに威力を発揮する。



(写真左上)マーガングルアイの顔部 (上中)「馬」に跨がって競争する児童 (上右)ビーチフラッグス  
(下左)ビーチファイヤー (下右)遠泳を終え、自由時間に海で遊ぶ児童  
\* 泳ぎの苦手な児童のために200mコースも用意しています。

チャンタブリーの海岸で実施した5年生の臨海学校

修学旅行などでは、「事前学習の単元構成をどのようにするか」、交流学習会などでは、「相互に交換するお土産の中に『日本らしさ』をどのように含めるか」、「プログラムに、歌や音楽をはじめ、どのような活動を取り入れるか」、「どういう心配りをするか」— そうした幾つもの選択肢<sup>せんたくし</sup>やその行動化の可能性が、それぞれのイベントのわくわく感をますます高めているのである。＊

＊ たとえば、今年度 10 月のシリキット王太后<sup>おうたいごう</sup>が崩御<sup>ほうぎょ</sup>された服喪<sup>ふくも</sup>の期間ということで、シラチャ校をホームとした現地校交流学習会の開会式では、会場にいた全員が1分間の黙禱<sup>もくとう</sup>をささげるなど、タイの人々への心情<sup>しんじょう</sup>に配慮<sup>はいりよ</sup>した工夫がなされていた。

普段の学習活動でさえそうなのだから、シラチャ祭のように、「子供たちと先生の発想や創造力、及び獲得してきた能力や特技（知識や技能）の総力戦の場」として位置付けているイベントともなれば、ますます驚きと感動の連続の場面が繰り返されるという状況になるのは当然だろう。



中学部の生徒が交流学習会のお土産として制作した和菓子サンプル

話題は少し変わるが、こうした発想や創造力が学校教育のわくわく感を支えているとしたならば、新しく教員としてプロの道を歩み始めた先生にも、発想力や創造力をブラッシュアップする研修の機会があればよいと思う。そこで、次年度に向けて、校内の若手教員を対象とした「クリエイティブ研修部門」を新設するというプランをたてている。

去る10月24日には、タイの「国民の母」として敬愛<sup>けいあい</sup>されたシリキット王太后<sup>おうたいごう</sup>が崩御<sup>ほうぎょ</sup>されたが、その一回忌<sup>いっかいき</sup>の時期にあたる来年の 10 月のシラチャ祭に、シリキット王太后の生前の功績に関連付けられた何らかの「表現」が、若手教員の研修プログラムの成果を反映した、中学部の生徒作品として結実<sup>けつじつ</sup>できないだろうか……。そのような発想も、小学部の現地校交流学習で行われた「黙禱<sup>もくとう</sup>」や、6年生の修学旅行や中学部8年生の修学旅行の事前学習における、タイの伝統衣装のチュッ・タイや山岳民族に受け継がれる民族衣装の刺繍<sup>ししゅう</sup>デザインなどの学習からヒントを得ることで生まれてくるのである。



次年度の研修スタッフや若手教員、そして生徒会を中心に活動する中学部の生徒たちに対しては、今からポジティブな期待に満ちた「わくわく感」でいっぱいである。



小学部全学年によるパサースック校との交流学習会・・・両校の児童と教職員約 650 名による集合記念写真

冬の日本とは異なり、いまだに冷房の効いた教室で授業をしているシラチャ校ではあるが、次年度に向けた準備の忙しさという意味では「師走」に変わりはない。同じく、冷房の効いた校長室から、年末の挨拶<sup>あいさつ</sup>をすることについても、違和感はなかなか抜けないが、シラチャ校の児童生徒や教職員の他、学校教育に関わってくださったすべての方々が、よい年末年始を迎えられることを願ってやまない。

では皆さん、年明けの始業式に、元気な笑顔でお会いしましょう。

追伸

今回の学校だよりが、2025 年最後の校長室からのたよりとなりましたが、今年度の初めから、学校教育活動に多くのご協力をいただいた PTA 会長様をはじめとする保護者の皆様、学校理事会の皆様など、すべての関係者の方々に対して、感謝を申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

それでは皆様、よいお年をお迎えください。

## 波を越え、手にした「自信」という宝物

5 年学年主任 堀澤 俊貴

「チャレンジ！ Break the limit ～波に乗って輝け～」 この力強いスローガンを胸に、5 年生は 12 月 3 日に、タイのチャンタブリーへと出発しました。見渡す限りの青い海を前に、子供たちの 2 日間の挑戦が幕を開けました。

初日の日中は、タイの伝統文化に触れるひととき。「マーガングルアイ」というバナナの葉を使った馬づくりに挑戦しました。自然の素材を工夫して形にする楽しさに、あちこちで歓声が上がります。



続くビーチレクでは、砂まみれになりながら「お宝」を必死に探し出し、クラスの枠を越えて大いに盛り上がりました。

日が落ちると、砂浜はキャンプファイヤーの幻想的な光に包まれました。燃え上がる炎を囲み、全員で心をつなげて踊った時間は、まさに忘れられない青春の 1 ページとなりました。

そして、最大の山場である「遠泳」。練習では見せることのなかった不安な表情が見られました。波や水の冷たさに足がすくみそうになる瞬間もありました。しかし、海の上で彼らを支えたのは、隣を泳ぐ仲間の声と、自分を信じる強さでした。

「あと少し！」「頑張ろう！」

励まし合いの連鎖が大きな力となり、一人、また一人とゴールに辿り着いた瞬間。その瞳には、限界を突破（Break the limit）した者だけがもつ、誇らしげな光が宿っていました。

この 2 日間で得たものは、単なる思い出ではありません。困難に立ち向かう勇気と、仲間と支え合うことの尊さです。教室では決して味わえないこの貴重な経験を、明日からの学校生活にどう繋げていくのか。一回り逞しくなった子供たちの、今後のさらなる飛躍が楽しみです。

## 心は一つ！～知ろう 知らせよう タイと日本の文化～

小学部交流会担当 堀澤 俊貴

11月26日(水)に、小学部はタイの現地校であるパサースック校と交流学習会を行いました。

開会式では、5、6年生による「ソーラン節」に3年生がシラチャ祭で披露した「ナーガ(龍)」とコラボレーションして、パサースック校を出迎えたり、「パプリカ」を歌ったりして交流しました。閉会式では、「365日の紙飛行機」をタイ語・日本語の両方で歌いました。ともに当日まで練習を積み重ねてきたこともあり、会場が一体となっていました。子供たちの表情や様子から、言葉の垣根を越えて、互いの思いを伝え合う強い力をもっていることが分かりました。

各学年の交流活動では、日本の文化を感じてもらえるような活動を考えて交流をしました。最初は緊張した面持ちの子供たちでしたが、ジェスチャーを交えながら、笑顔でコミュニケーションを取り合っている姿がたくさん見られました。「もっと長い時間交流したかった。」「またやりたい。」という様子から、パサースック校の子たちと「心は一つ！」になれたようでした。

現地校との交流は、海外にある在外教育施設ならではの活動の一つです。今回の交流会を通して、子供たちが多様性を受け入れる姿勢、相手を理解しようとする気持ちの大切さに気付くことができたことは、とても価値のあることだったと思います。今後もタイと日本の関わりを大切に過ごして行ってほしいと思います。



今年度着任された先生方の文章を  
順番に紹介していきます。

### 「マジョリティの中のマイノリティ」

水谷 杏

私は、サカナクションというバンドが好きです。楽曲や歌詞だけでなく、ボーカルの山口一郎さんの考え方にも惹かれています。その中に、「マジョリティの中のマイノリティ」という言葉があります。

私たちは今、タイで生活しています。人数で見れば、日本人は少数派、つまりマイノリティです。言葉や文化、習慣の違いに戸惑うこともあるかもしれませんが、けれど、マイノリティであることは、劣っていることでも、間違っていることでもありません。違う場所にいるからこそ、気付けることや、見えるものがあると私は思っています。

タイで生活する中で、相手を知ろうとする気持ち、自分を伝えようとする姿勢、そして互いの違いを認め合うことの大切さを、私自身も日々学んでいます。子供たちも、集団の中では周りを意識しながら過ごしています。しかし、一人一人にそれぞれの良さがあり、皆、違う存在です。その違いこそが、その子らしさであり、強みになるのだと思います。その一人一人の在り方が、身近な誰かに伝わり、少しずつ輪が広がっていくこともあるのだと思います。

多数派の中にいても、自分の考えや感じ方を大切にすること。少数派の中にいても、胸を張ってそこにいること。私自身も、そして子供たちにも、そんな姿勢を大切にしていってほしいと願っています。

### 「彼の生きかた」

杉山 沙織

中学3年生の夏休み、読書感想文が宿題に出ました。受験生としての勉強と、幼いころから続けてきた競泳の両立で手いっぱい「いかに宿題を楽に終わらせるか」を考えていた私に、父が薦めてくれたのが、遠藤周作の『彼の生きかた』でした。本自体は古く、内容も当時でさえ時代と合わないと感じる部分がありました。それでも、この本は私の価値観を大きく揺さぶりました。動物学者であり、幼いころから言葉の不自由さを抱えて生きた福本一平が、数々のつらい経験の中でも、「自分が本当に大切にしたいもの」を手放さずに生きる姿が描かれていたからです。

この本はその後、高校生、大学生、そして大人になった今も、折に触れて読み返しています。同じ物語であるにもかかわらず、その時々で感じ方は少しずつ異なり、読み終えたあとには、自分の心が元の位置に戻るような感覚があります。今では、私にとってバイブルのような一冊です。

生きているとつい、自分に足りないものに目を向け、周囲と比べてしまい心が暗くなることもあります。それでも、タイに来て私は、日本にいたら決して出会うことのなかった人や経験に出会いました。その多くは、なんとなく巡ってきたものではなく、自分自身が一歩踏み出したからこそ知ることができたものでした。

決められたことをこなし、しんどさを避ける「楽」な生き方は簡単かもしれませんが、しかし、自分の選択と一歩一歩の積み重ねで形作る人生の方が、迷いや失敗も含めて「自分の人生だ」と胸を張れる、カッコいい生き方だと思っています。大きく目立つ選択だけではなく、日常生活の中でのちょっとした選択も、自分の人生にとっては大きな一歩になりうると感じています。自分が誇れる毎日を積み上げていった先に、何かを見つけられたらと思います。



# の行事予定

日 曜	児童・生徒の予定	バス時刻
1日 (木)	元日	
2日 (金)	特別祝日	
3日 (土)	冬季休業	
4日 (日)		
5日 (月)		
6日 (火)		
7日 (水)	・3学期始業式 ・購買(配付日)	14:20 P1-6 M1-3
8日 (木)	・購買(提出日)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
9日 (金)	・避難訓練(地震)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
10日 (土)		
11日 (日)		
12日 (月)	・放課後指導(3年)	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
13日 (火)	・放課後指導(1年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
14日 (水)	・修学旅行(8年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1,3
15日 (木)	・修学旅行(8年) ・放課後指導(2年)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
16日 (金)	・修学旅行(8年) ・委員会活動(小) ・学級だより配信(小)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
17日 (土)		
18日 (日)		
19日 (月)	・クラブ活動 ・放課後指導(3年)	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
20日 (火)	・実力テスト(7,8年) ・校外学習(3年) ・放課後指導(1年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
21日 (水)	・購買(配付日)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
22日 (木)	・購買(提出日) ・放課後指導(2年)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
23日 (金)		14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
24日 (土)		
25日 (日)		
26日 (月)	・放課後指導(3年)	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
27日 (火)	・放課後指導(1年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
28日 (水)	・全校縦割り班活動 ・シラチャ作品展(保護者鑑賞日～30日)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
29日 (木)	・アクティブタイム(中学部) ・放課後指導(2年)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
30日 (金)	・学校,学年だより配信 ・校外学習(5年) ・学級だより配信(小,中) ・進路ガイダンス(7,8年保護者対象)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
31日 (土)		

★は特別バスです。通常の下校バスと時刻が違うときについています。

## 3 学期 始業式

7日(水)は、3学期の始業の日となりますので、小学生の皆さんは袖付き、襟ありの服装で登校してください。また、この日は全校5時間授業となります。お弁当も必要ですので忘れずに持ってきてください。他にも、各学年・学級から出ているお便りをもとに、準備をお願いします。

## 避難訓練【地震】

9日(金)の3校時に地震発生時の避難訓練を予定しています。第1学期には不審者侵入時の避難訓練を、第2学期には火災発生時の避難訓練を行いました。そして、今回は災害(地震)を想定した避難訓練です。災害はいつどこで起こるかはわかりません。大切な命を守るための重要な学習です。

## 8 年 修学旅行

14日(水)から2泊3日の日程で、8年生がチェンマイ、ランパーンに修学旅行に行きます。学級での事前学習や準備をしっかりとし、最高の修学旅行を目指しましょう。

## 3・5年 校外学習

20日には3年生がロッテ工場を、30日には5年生が三菱モータースを校外実習として訪問します。現地生産の現場を直接自分の目で見ることで、さらに深い学習につながることでしょう。

## 7・8年実力テスト

20日(火)は7・8年生の実力テストがあります。これまでの学習の定着を確認する機会となります。また、この結果は高校受験における貴重な資料にもなります。日々の学習成果を十分に発揮できるように計画的に取り組んでいきましょう。

## シラチャ作品展

28日(水)から「シラチャ作品展」を開催いたします。図工や美術、技術、家庭科で子どもたちが一生懸命に作成した作品を、ご来校いただいた際にご覧ください。なお、ホールは上履き等が必要です。お忘れなくご持参ください。

## 7・8年保護者向け進路ガイダンス

30日(金)の4校時は7・8年生の保護者を対象とした進路ガイダンスを行います。在外から日本の高校へ進学する場合に気を付ける点等をお伝えします。この機会にお子様の次の進学先についてご家庭でも話し合う機会にしてください。

## 引っ越しをされた場合

担任へGoogle連絡帳等でご一報ください。また、電話番号が変わった場合も同様をお願いします。緊急時のご連絡先(SMS含む)の把握にも必要となります。